

# 農作業コツのコツ

【第12号】

令和7年7月5日

福光農業改良協議会

砺波農林振興センター南砺班

福光農業協同組合 営農部

熱中症は7月～8月に多く発生し、70代以上でリスクが高くなっています。

単独での作業を避け、作業前・作業中の水分・塩分補給、こまめな休憩をとりましょう。

現在は、収量・品質の確保に重要な時期ですが、**干しすぎのほ場が散見**されます。**稲体活力維持**のために、**積極的に入水し、干しすぎない水管理**を徹底しましょう。

各ほ場の生育に応じた適切な**穂肥施用**や**斑点米カメムシ類の防除**を徹底しましょう。

## 水稻の生育状況

(直播6月27日、移植7月1日：福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期 ※R7は予想日		
	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	
コシヒカリ	5/14	5/14	59.9	58.1	22.5	23.6	11.1	11.1	4.1	4.1	(7/10)	7/10	
てんこもり	5/11	5/9	55.2	49.9	39.5	34.3	12.4	12.0	4.2	4.3	(7/10)	7/13	
密苗	コシヒカリ	5/19	5/16	52.0	53.1	25.4	26.9	10.7	11.0	4.2	4.3	(7/13)	7/13
	てんこもり	5/9	5/8	53.6	47.8	33.4	34.4	12.4	11.7	4.1	4.2	(7/10)	7/14
直播	加パ- コシ	4/26	4/30	54.2	49.8	166	172	9.6	10.0	4.3	4.1	—	7/13
	鉄コ コシ	5/5	5/2	45.1	43.6	161	171	9.9	9.7	4.5	4.3	—	7/18
	鉄コ てんこ	4/29	4/30	39.1	38.2	213	198	10.3	10.4	4.4	4.4	—	7/20

調査筆数：直播(加パ-) 1筆、他2筆

直播の田植日は播種日、株当たり茎数はm当たり茎数

## 1 穂肥施用

### (1) 早生

肥効調節型基肥、分施肥系ともに出穂前に葉色を確認し、下表の葉色目安より淡い場合は出穂3日前(走り穂の時期)までに**追肥**を行い、登熟能力の向上を図りましょう。

※現時点で葉色が淡い場合、地区担当指導員にご相談ください。

#### ○出穂期予想と追肥施用の目安

品種	田植日	幼穂形成期	出穂期予想	追肥が必要な葉色 目安(出穂7日前)	施用量 BB穂肥35号
五百万石	5月5日	6月26日	7月17日	4.2以下	10kg/10a
とみちから	5月6日	6月26日	7月18日	4.5以下	
てんたかく81(慣行苗)	5月5日	6月26日	7月16日	4.0未満	
てんたかく81(密苗)	5月4日	6月23日	7月14日		

### (2) コシヒカリ

①**肥効調節型基肥体系**(基肥：Jコートコシヒカリ2号)の場合

原則、穂肥の施用は不要です。

②**分施肥系**(基肥：基肥555)の場合

幼穂長15mm頃の時期(5月14日植えて7月17日頃)に生育状況を確認し、下表に基づき、BB穂肥35号を施用しましょう。

#### ○幼穂長15mm頃のコシヒカリの姿

草丈	82cm以下	83～85cm	86cm以上
葉色	3.6程度	3.8程度	4.0以上
稲の姿等	ガッチリしている	ややメラついている	メラつく

#### ○穂肥の目安

1回目	施用時期	幼穂長15mm (幼穂形成期から7日後)	幼穂長20mm (幼穂形成期から9日後)	施用しない	
	10a当たり施用量		10kg		7～10kg
2回目	施用時期	1回目の1週間後	1回目の1週間後	幼穂形成期から2週間後	
	10a当たり 施用量	粘質土以外	12kg	12kg	12kg以下
		粘質土	11kg	11kg	11kg

※施用量等、詳しくは地区担当指導員に問合わせください。

### (3) てんこもり

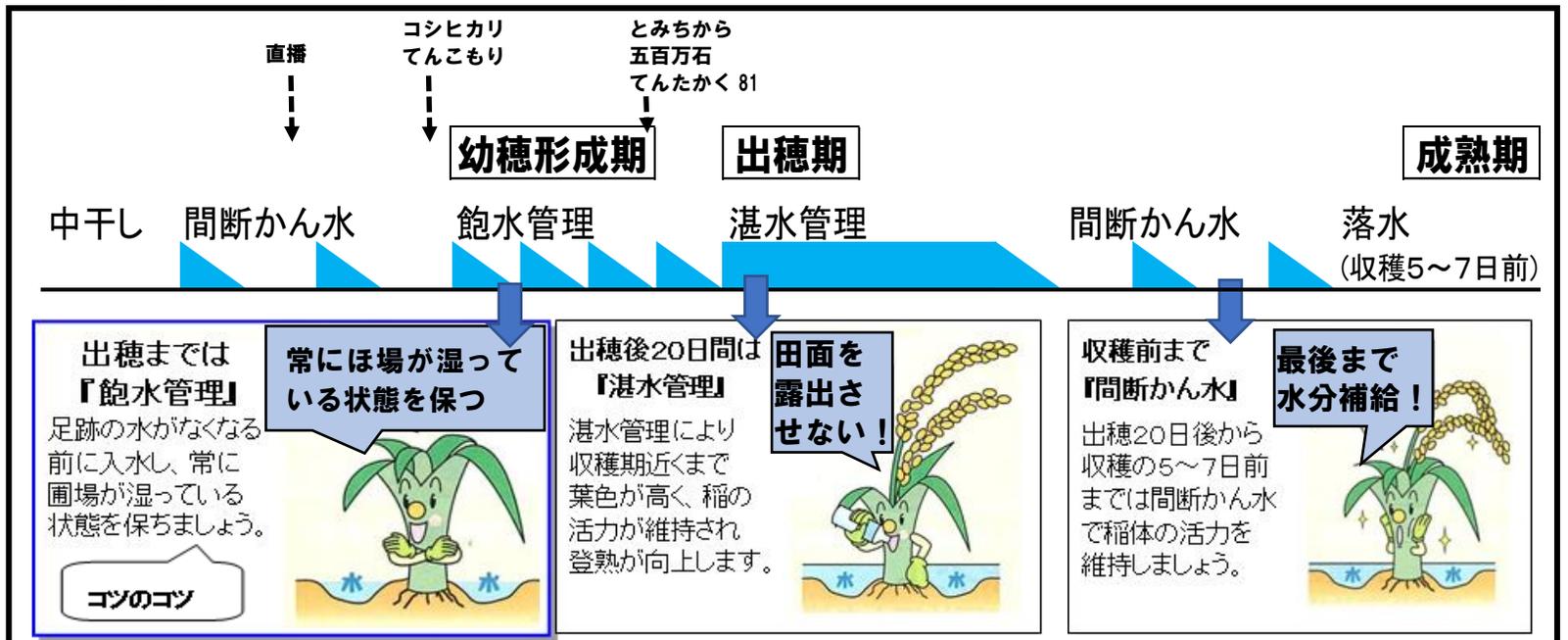
①**肥効調節型基肥体系**（基肥：Jコートてんこもり専用）の場合

- ・原則、穂肥の施用は不要です。
- ・ただし、幼穂形成期前後に**葉色4.0**を下回る場合は、直ちにBB穂肥35号を10a当たり11kg程度施用しましょう。

②**分施肥体系**（基肥：基肥555）の場合

1回目穂肥は**幼穂長1mm**（5月11日植えて7月8日頃）を確認したら直ちに11kg/10a、2回目穂肥は1回目穂肥の10日後に13kg/10aを施用しましょう。

## 2 水管理



### (1) 早生

- ・出穂期までは**飽水管理**を行い、**常には場が湿っている状態**を保ちましょう。
- ・出穂後は**20日間の湛水管理**とし、稲体の活力を維持しましょう。

### (2) コシヒカリ、てんこもり、直播

- ・幼穂形成期までは**間断かん水**、その後は出穂期まで**飽水管理**を行い、**常には場が湿っている状態**を保ちましょう。
- ・コシヒカリで葉色が濃く、ほ場が軟らかい場合は、7月20日頃まで間断かん水を継続しましょう。
- ・てんこもりは、**葉色4.0**を下回らないよう、**積極的に入水し、干しすぎに注意**しましょう。
- ・直播で葉色が濃く、茎数が過剰なほ場では、落水期間がやや長めの**間断かん水**を継続しましょう。

## 3 病虫害防除（早生）

適期に2回の基本防除を徹底し、カメムシ類による斑点米の発生を防ぎましょう。

### ○早生の防除時期の目安

防除時期の目安			薬剤、散布量	
			液剤【無人航空機】	粉剤
1回目	穂が全体の90%出た頃	7月17日~22日頃	ビームエイトスタークルブル 8倍、0.8ℓ/10a	ビームスタークル粉剤5DL 4kg/10a
2回目	1回目の1週間後	7月24日~29日頃	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップ粉剤DL 4kg/10a

(注) ①**必ず出穂状況を確認して防除**を行いましょう。

② 1回目防除と2回目防除の間隔は7日間とし、**10日以上空けない**ようにしまししょう。

③ 農薬を散布する際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましよう。

④ 無人航空機での散布の際は、電線・電柱等への接触事故に注意しまししょう。

⑤ **今年もカメムシが多く、斑点米多発のリスクは高くなっています。早生の3回目防除**が必要な場合は、地区担当営農指導員からお知らせします。

※中生・晩生・直播については次号でお知らせします。

**カメムシ類を抑えるため、基本防除時期まで雑草の穂が出ないように草刈りしまししょう。**